

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：課長 中島 威夫

事業名	一般国道8号 <small>うおづなめりかわ</small> 魚津滑川 バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：富山県魚津市住吉 至：富山県滑川市稲泉	延長	7.4 km		
事業概要 一般国道8号は新潟市から京都市に至る延長約560kmの主要な幹線道路であるほか、富山県内においても主要都市及び拠点間を結ぶ重要な路線である。 魚津滑川バイパスは、早月川の渡河部を含む延長7.4kmの4車線道路である。					
H元年度事業化		H元年度都市計画決定		H4年度用地着手	
H5年度工事着手					
全体事業費	約360億円	事業進捗率	69%	供用済延長	4.0km
計画交通量	33,000台/日				
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体)	総費用 (事業費) / (事業全体)		総便益 (残事業) / (事業全体)	
	(残事業)	104 / 299億円 (事業費：73/268億円 維持管理費：31/31億円)		829/829億円 (走行時間短縮便益：812/812億円 走行費用減少便益：10/10億円 交通事故減少便益：7/7億円)	
基準年 平成15年					
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築(隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する) ・生活環境の改善・保全(夜間騒音要請限度を超過している柳原地区の騒音レベル低下が見込まれる) 他8項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 一般国道8号は、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、魚津市をはじめとする関係3市2町の首長で構成される朝日滑川間国道・バイパス建設促進期成同盟会より早期整備の要望(平成15年11月27日)を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 富山市からバイパスが整備されている滑川市では人口増加の伸び率が富山県平均を上回っている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 地元合意のもと用地買収を終了し、現在までに4.0kmを部分供用している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成15年度に全線暫定供用を行い、交通状況を勘案しつつ引き続き完成供用を目指す。					
施設の構造や工法の変更等 コンクリート構造物の大型化(長尺化)、用排水路のプレキャスト製品の積極的活用、再生材を利用した舗装・路盤工の活用等によるコスト縮減を図っている。					
対応方針 事業継続					
対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図					

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。